



地域の協力を得て農村文化の継承 懐かしい武蔵野の風景を復活

国営昭和記念公園「こもれびの里」

人の手で造り上げた
心やすらぐ武蔵野の原風景

米軍の立川基地跡地に整備された国営昭和記念公園は都内最大級の都市公園。その園内の道を進んで行くと、こつ然と小さな村が現れます。陸稻が風にそよぎ、畑には野菜が豊かに実り、道の先には茅葺き屋根の家や水車小屋も。初めて訪れる人も、なぜか懐かしさに包まれる不思議な村――。「武蔵野



まるでどこかの農村にきたような錯覚に



〔NPO 法人武蔵野の里作りクラブ〕理事長・豊泉喜一さん

の農村の心象風景の再現をテーマに官民協働で整備を進め、平成19年に開園した「こもれびの里」です。

「武蔵野の農村風景は、昭和30年代に都市化が進んで急速に失われていきました。私も立川の農家に生まれ、景観が変わる様子を見ながら寂しく思っていましたから、計画を聞いたときはうれしかったですね」

そう語るのは「NPO法人武蔵野の里作りクラブ」理事長の豊泉喜一さん。平成14年の整備開始当初から指導員に任命され、地域の有志の方々と協力し合いながら、里づくりに取り組んできました。

「開墾にあたり、昔と同じように機械に頼らずに行く。そんな「こだわり」をもつて始めたのですが、基地だった土壌

は硬く、人力で造成するのは大仕事でした。水もトイレもなく、泥まみれで開拓時代そのもの。でも、その経験があったからこそ、先人の苦勞を思い、額に汗して働く喜びや収穫への感謝の気持ちを実感できた。里への愛着やメンバー同士の結束も深まったように感じます」

民俗文化の豊かさを今に伝える 江戸期の古民家を公開

整備開始以降、少しずつ増築を行い、集会所となる「里の小屋」や炭焼き小屋、水車小屋などさまざまな施設が建てられました。平成25年春には、4棟の古民家建築を移転・復元した「里の農家」を一般公開しています。このうち、主屋・長屋門・内蔵は狛江市の名主・石井家より譲り受けた築200年以上の建築で、立川市指定有形文化財となっています。

堂々とした長屋門をくぐると、漆喰の白壁が美しい外蔵が目に入ります。そして、当時の工法を踏襲して補

修された趣ある主屋は建築物としての面白さはもちろん、農機具や囲炉裏やかまど、養蚕の飼育棚など当時の暮らしを偲ばせる展示も見ごたえがあります。季節ごとに展示される盆棚飾りや正月飾りなども、文化の豊かさを感じられるでしょう。渡り廊下で繋がった内蔵は、土蔵本体の上に茅葺き屋根が乗る置屋根式となっております。明かり窓に

修された趣ある主屋は建築物としての面白さはもちろん、農機具や囲炉裏やかまど、養蚕の飼育棚など当時の暮らしを偲ばせる展示も見ごたえがあります。季節ごとに展示される盆棚飾りや正月飾りなども、文化の豊かさを感じられるでしょう。渡り廊下で繋がった内蔵は、土蔵本体の上に茅葺き屋根が乗る置屋根式となっております。明かり窓に



昨年園内に移築された築200年を超える古民家。置屋根式の土蔵には見事な鏝絵も





大きい! 広い! 楽しい! 国営公園に行こう!



収穫した小麦は園内の水車で製粉



「こもれびの里」の楽しみ方は見るだけではありません。田植えや収穫祭などの農作業や、炭焼き、うどん作りなど、年間を通じて多彩なイベントが開催され、子どもからお年寄りまで多くの参加者で賑わいます。今では珍しくは見事な鶴亀の饅頭も施されています。「調度品や民具も当時のものをできるだけ活かしました。説明書きに立川市民俗資料館の協力をいただいたり、国文学研究資料館に民具を貸し出したり、ほかの組織との連携も広がっています。こうしたことを通じてより多くの方に丁寧に武蔵野の文化を紹介していきたいと考えています」

農作業や年中行事などを通して自然と暮らしの知恵を体験する

なつた麦刈りが終わり鎌に感謝する鎌洗いや、正月に繭の豊作を祈るまゆ玉行事など、さまざまな武蔵野の年中行事も実施しています。そうした企画・運営を担うのも、ボランティアの皆さん。



古民家で行われるうどん作り講習の様子

開園にあわせて運営委託先として有志で設立した「NPO法人武蔵野の里作りクラブ」と毎年募集されるボランティア「こもれびの里クラブ」を合わせた総勢約90名が活動しています。

「4分の1が開園前からの参加ですが、新しいメンバーも多く、和気あいあいとしながら進めています。植物や鳥に詳しい方、介護や障がい者支援をしながら取り組んでいる方など、得意なことやプロフィールもそれぞれ。案内する人によって異なる里の魅力が楽しめるのも面白いですよ」

また昭和記念公園の他のボランティアと兼任している人も多く、積極的な市民参加が、公園全体の魅力に貢献していることがうかがえます。

先人たちが培った知恵や文化を次の世代へ伝承するために

「こもれびの里」を訪れる人は年々増

国営昭和記念公園に行ってみよう!

東京ドーム39個分に相当する広大な敷地には、美しい樹々や四季折々の草花で彩られ、バーベキューガーデンやサイクリングコース、日本庭園など施設も充実。イベントや体験学習も数多く開催され、地域住民の交流や文化活動の拠点にもなっています。秋には550万本ものコスモスが咲き乱れ、紅葉が見頃を迎えます。ぜひ、足を運んでみてください。

●休園日

年末年始、2月の第4月曜日及びその翌日
※こもれびの里・里の農家は毎週月曜日休園
(月曜日が休日の場合はその翌日の平日)

●行き方

- ▶立川口 (JR 中央線 立川駅より徒歩約15分、多摩都市モノレール 立川北駅より約13分)
 - ▶西立川口 (JR 中央線 西立川駅より徒歩約2分)
 - ▶砂川口 (西武拝島線 武蔵砂川駅より徒歩約20分)
- ※上記以外に5か所の入り口があります。

●入園料

大人 (15歳以上) 410円、小人80円
シルバー (65歳以上) 210円

●お問い合わせ

042-528-1751 (自動応答)

●公園ホームページ

<http://www.showakinen-koen.jp/>

加しており、昭和の農村風景を知る世代が当時を懐かしんでやってくる人が多いそうです。しかし「それだけではいけない」と豊泉さんは言います。

「先人が培った知恵や文化を知ることは、若い世代にも重要な意味があるはず。核家族化が進み、食や生活などの文化伝承が分断しがちななかで、『こもれびの里』がその役割の一部を担えればと考えています。娯楽が多い時代にどっしりとした若い世代に関心を持ってもらえるか、今後の大きな課題です」

そのためにも『こもれびの里』のテーマである「昭和・武蔵野・農業」に関わることなら自由な発想で取り組み、ま

ずは関わる人々が楽しめる場にしきたいとのこと。例えば、囲炉裏を囲んだ昔話の会や農家での古式ゆかしい結婚式など、さまざまな企画がメンバーから上がっています。

「武蔵野の景観・農業文化・歴史を再現・保存し、次の世代に継承するという重要な役割を担っていますが、堅苦しく考える必要はないと思います。ぜひ、おじいちゃんおばあちゃんのお家に遊びに来るつもりで、たくさんの方に気楽に来てもらいたいですね」



里ではボランティアスタッフの方々の手によって畑の準備が